在ベネズエラ日本国大使館

ベネズエラ情勢（内政・外交：令和２年８月）

１　内政

（１）　新型コロナウイルス感染症対策関連

（ア）　１日、ホルヘ・ロドリゲス副大統領は、新たに８６９名の感染者と５名の死者を確認したと発表（感染者総数は１９，４４３名、うち死者は１６９名、治癒者１１，１２９名）。新たな感染者のうち、８３４名は市中感染、３５名が輸入症例。

（イ）　２日、デルシー・ロドリゲス副大統領は、新たに７６３名の感染者と５名の死者を確認したと発表（感染者総数は２０，２０６名、うち死者は１７４名、治癒者１１，４０４名）。新たな感染者のうち、６３３名が市中感染、１３０名が輸入症例。

（ウ）　３日、ホルヘ・ロドリゲス副大統領は、新たに５４８名の感染者と６名の死者を確認したと発表（感染者総数は２０，７５４名、うち死者は１８０名、治癒者１１，６２２名）。新たな感染者のうち、４７７名が市中感染、７１名が輸入症例。

（エ）　４日、デルシー・ロドリゲス副大統領は、新たに６８４名の感染者と７名の死者を確認したと発表（感染者総数は２１，４３８名、うち死者は１８７名、治癒者１１，８７５名）。新たな感染者のうち、６３２名が市中感染、５２名が輸入症例。

（オ）　５日、ホルヘ・ロドリゲス副大統領は、新たに８６１名の感染者と８名の死者を確認したと発表（感染者総数は２２，２９９名、うち死者１９５名、治癒者１２，１４５名）。新たな感染者のうち、８４８名が市中感染、１３名が輸入症例。同日、アレアサ外相は新型コロナウイルス感染症患者の治療薬としてロシア製の「アビファビル（Avifavir）」の調達に向けて手続きを始めていると述べた。

（カ）　６日、デルシー・ロドリゲス副大統領は、新たに９８１名の感染者と７名の死者を確認したと発表（感染者総数は２３，２８０名、うち死者は２０２名、治癒者１２，４７０名）。新たな感染者のうち、９４２名が市中感染、３９名が輸入症例。同日、与党関係者のツイッターにて、新型コロナウイルス感染後初めて、カベージョ制憲議会議長のコメント動画が投稿され、当地紙では、「カ」制憲議会議長は、退院し自宅での隔離に移行したと報じられた。

（キ）　７日、マドゥーロ大統領は、新たに８８６名の感染者と６名の死者を確認したと発表（感染者総数は２４，１６６名、うち死者は２０８名、治癒者１２，９６０名）。新たな感染者のうち、８４４名が市中感染、輸入症例が４２名。エル・アイサミ副大統領は、自らのツイッターに、新型コロナウイルス感染症から回復してから初めて動画を投稿し、完治している様子を見せた。

（ク）　８日、デルシー・ロドリゲス副大統領は、新たに７９５名の感染者及び７名の死者を確認したと発表（感染者総数は２４，９６１名、うち死者は２１５名、治癒者１３，３５６名）。新たな感染者のうち、市中感染は７３２名、輸入症例は６３名。

（ケ）　９日、マドゥーロ大統領は、新たに８４４名の感染者と８名の死者を確認したと発表（感染者総数は２５，８０５名、うち死者は２２３名、治癒者１４，２２５名）。新たな感染者のうち、市中感染が７９７名、輸入症例が４７名。また、「マ」大統領は、外出規制一部緩和策「７＋７」に鑑み、１０日～１６日、全国を３段階に分けて感染者数の増加が小さい州における経済活動の一部再開を行う旨発表。同日、フレディ・ベルナル・タチラ州護民官は、新型コロナウイルス感染症検査において陽性反応が確認された旨発表。

（コ）　１０日、デルシー・ロドリゲス副大統領は、新たに９９５名の感染者と６名の死者を確認したと発表（感染

者総数は２６，８００名、うち死者は２２９名、治癒者は１６，９３０名)。

（サ） １１日、ホルヘ・ロドリゲス副大統領は、新たに１，１３８名の感染者及び９名の死者を確認したと発表（感染者素数は２７，９３８名、うち死者は２３８名、治癒者は１９，７０６名)。

（シ） １２日、デルシー・ロドリゲス副大統領は、新たに１，１５０名の感染者と９名の死者を確認したと発表（感染者総数は２９，０８８名、うち死者は２４７名、治癒者は２１，０４２名)。市中感染者数の上位州はカラカス首都圏（２４９名)、ミランダ州（２１９名)、ラ・グアイラ州（１００名)。同日、ホルヘ・ロドリゲス副大統領は、自らのツイッターを通じて、新型コロナウイルスに感染し、隔離を行う旨発表した。

（ス） １３日、デルシー・ロドリゲス副大統領は、新たに１，２８１名の感染者及び１２名の死者を確認したと発表（感染者総数は３０，３６９名、うち死者は２５０名、治癒者は２１，３８５名)。市中感染者数の上位州はカラカス首都圏（３７１名)、ミランダ州（２１９名)、アンソアテギ州（１４４名)。

（セ） １４日、デルシー・ロドリゲス副大統領は、新たに１，０１２名の感染者及び７名の死者を確認したと発表（感染者総数は３１，３８１名、うち死者は２６６名、治癒者は２１，５８０名)。市中感染者数の上位州はカラカス首都圏（２２１名)、ミランダ州（１９２名)、スリア州（１０７名)。

（ソ） １５日、デルシー・ロドリゲス副大統領は、新たに１，２２６名の感染者（過去最多）及び１０名の死者を確認したと発表（感染者総数は３２，６０７名、うち死者２７６名、治癒者２１，７４７名)。市中感染者数の上位州はカラカス首都圏（３５１名)、ミランダ州（２２６名)、スリア州（１６０名)。

（タ） １６日、デルシー・ロドリゲス副大統領は、新たに１，１４８名の感染者及び５名の死者を確認したと発表（感染者総数は３３，７５５名、うち死者２８１名、治癒者２２，７００名)。感染者数の上位州はカラカス首都圏（３９９名)、ラ・グアイラ州（１９７名)、ミランダ州（１６８名)。

（チ） １７日、デルシー・ロドリゲス副大統領は、新たに１，０４７名の感染者及び７名の死者を確認した旨発表（感染者総数は３４，８０２名、うち死者２８８名、治癒者２３，５７５名)。新規感染者数の上位州は、カラカス首都圏（３９３名)、ミランダ州（２５０名)、ラ・グアイラ州（８０名)。

（ツ） １８日、デルシー・ロドリゲス副大統領は、新たに８９５名の感染者及び９名の死者を確認した旨発表（感染者総数は３５，６９７名、うち死者２９７名、治癒者２４，５６１名)。新規感染者数の上位州は、カラカス首都圏（２８２名)、ミランダ州（１６４名)、モナガス州（９９名)。同日、カベージョ制憲議会議長は、新型コロナウイルス感染症治療後初めてテレビ出演し、約１５日後から自身のテレビ番組への出演を再開すると発言。

（テ） １９日、デルシー・ロドリゲス副大統領は、新たに１，１７１名の感染者及び６名の死者を確認した旨発表（感染者総数は３６，８６８名、うち死者３０３名、治癒者２５，４１６名)。新規感染者の上位州は、ミランダ州（２８７名)、カラカス首都圏（１９８名)、ラ・グアイラ州（１６２名)。

（ト） ２０日、デルシー・ロドリゲス副大統領は、新たに６９９名の感染者及び８名の死者を確認した旨発表（感染者総数は３７，５６７名、うち死者３１１名、治癒者２６，３３０名)。新規感染者の上位州は、ミランダ州（１６７名)、カラカス首都圏（１５８名)、スリア州（５３名)。

（ナ） ２１日、マドゥーロ大統領は、新たに６２１名の感染者及び６名の死者を確認した旨発表（感染者総数は３８，１８８名、うち死者３１７名、治癒者２７，３０６名)。同日、アルバラド保健大臣は、ロシア製ワクチン（Sputnik V）の第３フェーズの治験に５００名のベネズエラ人を参加させる旨発言。

（ニ） ２２日、デルシー・ロドリゲス副大統領は、新たに７６９名の感染者及び６名の死者を確認した旨発表（感染者総数は３８，９５７名、うち死者３２３名、治癒者２８，４５３名)。新規市中感染者の上位州は、カ

ラカス首都圏（２８０名）、ミランダ州（１６７名）、ラ・グアイラ州（６５名）。

（ヌ） ２３日、デルシー・ロドリゲス副大統領は、新たに６０７名の感染者及び６名の死者を確認した旨発表（感染者総数は３９，５６４名、うち死者３２９名、治癒者２９，９６６名）。新規市中感染者数の上位州は、ミランダ州（２２０名）、カラカス首都圏（１９８名）、ラ・グアイラ州（５０名）。

（ネ） ２４日：新規症例数７７４名、累計症例数４０，３３８名、新規死者数８名、累計死者数３３７名、累計治癒数３１，０８０名。新規市中感染数の上位州はカラカス首都圏（２２３名）、ミランダ州（１４７名）、デルタ・アマクロ州（６４名）。

（ノ） ２５日：新規症例数８２０名、累計症例数４１，１５８名、新規死者数６名、累計死者数３４３名、累計治癒数３２，０１５名。新規市中感染数の上位州はミランダ州（１７３名）、カラカス首都圏（１５４名）、アラグア州（１１７名）。

（ハ） ２６日：新規症例数８０７名、累計症例数４１，９６５名、新規死者数８名、累計死者数３５１名、累計治癒数３２，９３１名。新規市中感染数の上位州はカラカス首都圏（２９０名）、ミランダ州（１９４名）、タチラ州（１０５名）。

（ヒ） ２７日：新規症例数９３３名、累計症例数４２，８９８名、新規死者数７名、累計死者数３５８名、累計治癒数３４，１４７名。新規市中感染数の上位州はカラカス首都圏（２３３名）、ミランダ州（１４４名）、アプレ州（６７名）。２７日、ホルヘ・ロドリゲス副大統領は、新型コロナウイルス感染症から回復したと発表。また、同日、マドゥーロ大統領は、ロシア製ワクチン Sputnik V の第３フェーズの治験の参加者の選考を開始すると述べた。

（フ） ２８日：新規症例数９８１名、累計症例数４３，８７９名、新規死者数８名、累計死者数３６６名、累計治癒数３４，９７０名。新規市中感染数の上位州はカラカス首都圏（４２２名）、ミランダ州（１８４名）、ラ・グアイラ州（７８名）。

（ヘ） ２９日：新規症例数１，０６７名、累計症例数４４，９６４名、新規死者数９名、累計死者数３７５名、累計治癒数３６，１７５名。新規市中感染数の上位州はカラカス首都圏（３１３名）、ミランダ州（９０名）、ラ・グアイラ州（６０名）。

（ホ） ３０日：新規症例数９２２名、累計症例数４５，８６８名、新規死者数６名、累計死者数３８１名、累計治癒数３７，０９１名。新規市中感染数の上位州はカラカス首都圏（３３２名）、ミランダ州（１７８名）、ボリバル州（４８名）。

（マ） ３１日：新規症例数８６０名、累計症例数４５，８６８名、新規死者数５名、累計死者数３８６名、累計治癒数３８，１１２名。新規市中感染者数の上位州はカラカス首都圏（２５８名）、ミランダ州（１３０名）、ヌエバ・エスパルタ州（１２３名）。

（２） 非常事態宣言、商用便の運航停止の継続

９日、マドゥーロ大統領は、新型コロナウイルスから国民を保護し続けるため、憲法第３３８条に則り非常事態宣言を３０日間延長する旨発表。また、１２日、民間航空局は商用便の停止期限を９月１２日までと発表。

（３） 国会議員選挙への不参加を表明する野党側共同コミュニケ

２日、グアイド暫定大統領府は、国会議員選挙への不参加を表明する主要野党を含む２７政党による共同コ

ミュニケを発表。同コミュニケに参加した政党は、主要野党である民主行動党（ＡＤ）、新時代党（ＵＮＴ）、正義第一党（ＰＪ）、大衆意志党（ＶＰ）の他、キリスト教社会党、急進正義党、ベネズエラ革新運動党、会計明解党他。

（４） ヒメネス全国選挙評議会（ＣＮＥ）副委員長の辞任、最高裁による後任の任命

（ア） ６日、ヒメネスＣＮＥ副委員長は、メディアに対し、最高裁に対して辞表を提出した旨述べるとともに、自らの考えが（ＣＮＥ副委員長として）求められる公正な立場に反すると感じたからである等と理由を説明。

（イ） 同日、グアイド暫定大統領は、Ｆａｃｅｂｏｏｋを通じたストーリー在ベネズエラ米国臨時代理大使（在コロンビア）との会合において、最高裁がＣＮＥ委員を任命する権限を有さないときにＣＮＥ委員に立候補してはならなかったと述べつつ、辞任は「前向きな一歩である」と評価。

（ウ） ６日、最高裁はヒメネス前ＣＮＥ副委員長の後任として、レオナルド・モラレスを任命した旨の判決概要をホームページに掲載。（注：モラレスは、「国民対話」に参加している少数野党の急進進歩党執行部幹部。）

（５） 治安当局等による民主行動党（ＡＤ）本部等の占拠

（ア） ９日、国家警察特殊部隊（ＦＡＥＳ）やコレクティーボ等武装集団が AD 党本部及び支部を占拠。現場において、同党所属議員らが本部または支部に入場することを妨げるために催涙弾の発射、花火・石等を投げる等の攻撃が行われた。

（イ） １０日、最高裁によってＡＤ党の臨時執行部代表として任命されたベルナル氏が、放置状態にあった同党本部等を回復したと発表。同氏は、党本部等の占拠について、党と関係のない者や体制側関係者によるものでも恣意的な決定によるものでもなく、同党のセキュリティ・維持管理部門の職員から手渡された鍵を使用して施設にアクセスしたと述べた。また、党本部等が放置状態であったとしてヘンリー・ラモス・アルップ議員率いる執行部を非難。

（６） テロ侵入未遂事件の容疑者１５名の起訴

１３日、サーブ検事総長は、同日、５月のテロ侵入未遂事件にかかる第２回口頭審問の終了後、新たに１５名の容疑者を起訴すると発表。また、サーブ検事総長は、７日、Silvercorp 社に雇用されていた米国人２名は起訴されており、陰謀・共謀、違法武器輸送等の罪で懲役２０年の判決が決定されており、今回の起訴を受けた１５名を加えるとテロ行動への関与を認めた傭兵の数は１７名となったと説明した。

（７） 最高裁による与党会派「大愛国同盟」政党に対する党執行部の一時停止等の決定

（ア） １８日、与党会派「大愛国同盟」に属するベネズエラ共産党、皆のための祖国党（PPT）を含む左派少数派９政党が、与党 PSUV 党とは別に国会議員選挙への統一候補者の擁立に向け団結する決定を発表。

（イ） １８日、最高裁は、与党会派大愛国同盟に属する与党 Tupamaro 党執行部の一時停止等を決定。ウィリアム・ベナビデス率いる臨時理事会を任命した。最高裁は、臨時理事会は Tupamaro 党の選挙登録、ロゴ等を使用でき、党執行部による党員に対する除籍等の措置を暫定的に一時停止する旨発表。

（ウ） 同日、Tupamaro 党幹部他は、ビデオメッセージを通じて、最高裁の今次決定に対する拒絶を表明し、党員、大衆組織及び左派政党等に対して、近日中に街頭で行動するよう呼びかけた。

（エ） ２１日、最高裁は、Tupamaro 党同様に与党会派大愛国同盟に属する与党皆のための祖国党（ＰＰＴ）執行

部の一時停止等を決定。市民イレニア・メディーナ率いる臨時理事会を任命。ウスカテギＰＰＴ党党首は、最高裁に持ち込まれた書類はメディーナ氏他によって作成された文書であるとして非難。

（８） 国会議員選挙立候補者の届出期間の延長

（ア） １７日付書簡を通じ、MAS 党、革新進歩党（AP）、Cambiemos 党、変化のための希望党、キリスト教社会党（Copei）及び民主行動党の６政党は、共同で CNE に対して立候補者の届出期間の延長を要請。ロメロ AP 党代表は、右６政党による統一候補者の擁立に向けた交渉は進捗しているが、状況は複雑であると発言。

（イ） １８日、アルフォンソ CNE 委員長が、国会議員選挙立候補者の届出期間の７日間の延長を発表。同委員長は、今次延長は、より多くの政党による幅広い参加を促進するためで有り、選挙日程になんら影響を与えるものではないと述べた。

（９） グアイド暫定大統領による発表

（ア） １９日、グアイド暫定大統領は、ＳＮＳ等を通じて主要野党リーダー及び主要セクターに対し、団結を呼びかけるビデオを投稿し、同ビデオ内において、１０日前後で、主要野党リーダーと共に共通の道筋に関し議論し、合意したい旨発言。

（イ） ２０日、グアイド暫定大統領は、医療従事者等に対して計３００米ドルを支給する経済支援等に関し、ベネズエラ資産の使用について米国財務省外国資産管理室（ＯＦＡＣ）のライセンスを得た旨発表。

（ウ） ２３日、グアイド暫定大統領は、全てのセクターとともに連結する「統一協定」を構築したい考えを発表。

（１０） 国会議員選挙立候補者の届出期間の再延長

（ア） ２６日、アルフォンソ全国選挙評議会（ＣＮＥ）委員長は、１２月に実施予定の国会議員選挙立候補者の届出期間を９月４日まで再延長すると発表。なお、１８日に当初の届出期間の延長がなされており、今回は２回目の延長。

（イ） 同日、グアイド暫定大統領は、「独裁政権は茶番（注：国会議員選挙）の登録期間を再度延期した。誰も茶番を支持しない。」と発言。

（１１） レケセンス国会議員の自宅軟禁措置への変更

（ア） ２８日、内務司法省諜報局（SEBIN）収容所にて約２年間拘束中であったレケセンス議員（正義第一党（PJ））に対し、自宅軟禁措置が付与された。レケセンス議員は２０１８年８月のマドゥーロ大統領暗殺未遂事件に関与した疑いで SEBIN 収容所に拘束されていた。

（イ） 同日付コミュニケを通じ、グアイド暫定大統領は、全ての政治犯の完全な自由を要求するとともに、拘束中の同議員に対するあらゆる越権行為、また、その他の政治指導者をとらえるために一部の人質を解放する独裁体制の常套手段である等としてマドゥーロ体制を非難。

（１２） 「統一協定」構築にむけたグアイド暫定大統領と野党リーダーとの会合

（ア） ２９日、グアイド暫定大統領は、統一協定の構築を目的に極右野党ベンテ・ベネズエラ党のマチャド代表と会合。会合後のビデオメッセージによって、マチャド代表は、グアイド暫定大統領と率直かつ明らかに話をしたとして、「ベネズエラ国民には、選挙を通じたマドゥーロ体制の無制限の権力維持と、国民投票を通じ

た暫定政権の無期限の維持の二者択一しかないというのは真実ではない」と述べた。

（イ） ３０日、グアイド暫定大統領は、１００以上の市民・社会組織、政治リーダー等がマドゥーロ独裁体制からの脱却としての統一協定を支持し、重要な進捗を構築していると報告した。同日、グアイド暫定大統領は、統一協定の署名を目的に更に一週間協議を継続すると表明。

（ウ） ３１日、グアイドに近い野党議員がツイッターを通じ、統一協定の構築のための話し合いを終えた野党政党の共同コミュニケ（計２５政党）が、改めて１２月６日の国会議員選挙には参加せず、「統一協定」の構築の道筋を進む旨合意したと表明。

（１３） 政治関係者１１０名に対するマドゥーロ大統領恩赦の付与

（ア） ３１日、マドゥーロ大統領は、国会議員及び代理議員計２６名を含む１１０名の政治関係者に大統領権限により恩赦を与える旨の大統領令に署名した旨発表。なお、今次恩赦付与の対象に、グアイド暫定大統領、レオポルド・ロペス大衆意志党党首、フリオ・ボルヘス外交担当暫定大統領コミッショナー、グアイド暫定大統領の叔父等は含まれなかった。

（イ） 同日、グアイド暫定大統領は、同日にマドゥーロ体制が１００名以上の国会議員、国外亡命者、政治家に対して与えた恩赦は「人質の解放」であるとして非難。

（ウ） 同日、長期に亘って拘束されていたロベルト・マレロ・グアイド暫定大統領室長、ジルベル・カロ代理議員、レンソ・プリエト代理議員、９月１日、イスマエル・レオン代理議員、グアイド暫定大統領側近チームメンバーのキハダ氏等が解放された。

（１４） その他

（ア） ５日、アルフォンソ CNE 委員長は、新型コロナウイルス対策を含めた選挙に関するバイオセキュリティ対策計画をＰＡＨＯに今後提出し、評価を受けるつもりである旨発言。

（イ） １０日、１２月６日の国会議員選挙に向けた立候補者登録が開始（１８日に２６日まで、２６日に９月４日まで延長）。

（ウ） １２日、アレアサ外相は、国会議員選挙における国際社会（との関係）に関する計画等に関する意見交換のためアルフォンソＣＮＥ委員長と会談。

（エ） １４日、グアイド暫定大統領府は、本年５月にサービスを終了した DirecTV（有料放送配信サービス）が、制裁を受けているチャンネルを除いた形で再開するとプレスリリースを通じて発表。同日、国家電気通信審議会（CONATEL）は、Scale Capital 社を通じたサービス再開を発表。

（オ） １６日、キューバ・ベネズエラ間の協定の枠組の下、２３０名のキューバ人医師団が到着。

（カ） １７日、マドゥーロ大統領は、ジャクリーン・ファリア・ビバス氏を新たにカラカス首都区「知事」に任命。

（キ） １８日、カプリレス元ミランダ州知事（ＰＪ）は、１２月に実施される国会議員選挙に関し、放棄と棄権以外の道筋についても議論すべきである等と述べた。

（ク） １８日、革新進歩党、ＭＡＳ党、Cambiemos 党、Copei 党、Esperanza por el cambio 党、最高裁により任命された臨時理事会率いる民主行動党は、全体の約７割の統一候補に関し合意した旨発表。

（ケ） １９日、パラ「議長」率いる国会は、１２月の国会議員選挙の際の透明性を保証するため、政権側に対して国連選挙監視団を招待することを提案。

（コ） ２７日、民主行動党（ＡＤ）執行部は、ゴメス・タチラ州知事が選挙に参加する決定を行い、ＡＤの方針と

合致しないことから同知事が自発的に党から離脱した旨発表。

（サ）　２７日、グアイド議長側国会のベラスコ議員は、米国食品医薬品局（ＦＤＡ）の承認を得たワクチンを購入するための資金獲得に向け国会は作業を行っていると発表。

２　外交

（１）　国会議員選挙に関するボレルＥＵ上級代表声明

（ア）　１１日、ボレルＥＵ上級代表は、国会議員選挙に関し「条件が満たされていない」等とする声明を発表。同声明において、ＥＵはマドゥーロ政権から「選挙同行ミッション」の派遣要請を受けていたが、選挙監視団を派遣するためには、ＥＵは信頼性、透明性、包括性の最低条件が保証されていること、選挙プロセスを妨害されることなく監視できることを要求しているとした。

（イ）　同日、グアイド暫定大統領は、ツイッターを通じて「欧州は、ベネズエラには公正かつ自由で検証可能な選挙プロセスのための条件が存在しない、という我々が非難してきたことを確認した」と表明し、ＥＵの立場を賞賛し、ボレル上級代表の取組に謝意を表した。

（２）　選挙に関する米国他３０か国の共同声明

（ア）　１４日、リマグループ、国際コンタクトグループ、米国を含む計３１か国が、自由かつ公正な大統領選挙、また、国会、最高裁、ＣＮＥ等のそれぞれの独立性の回復等を求める共同声明を発表。参加国は次のとおり。アルバニア、オーストラリア、バハマ、ボリビア、ブラジル、カナダ、チリ、コロンビア、コスタリカ、ドミニカ（共）、エクアドル、エルサルバドル、米国、エストニア、ジョージア、グアテマラ、ガイアナ、ハイチ、ホンジュラス、ハンガリー、イスラエル、コソボ、ラトビア、リトアニア、パナマ、パラグアイ、ペルー、英国、韓国、セントルシア、ウクライナ。

（イ）　同日、アレアサ外相が次期国会議員選挙をボイコットするように扇動する米国と衛星国政府による干渉的声明であるとして同声明を拒絶。

（ウ）　１５日、グアイド暫定大統領府はコミュニケを発出し、政権側による不正な国会議員選挙を拒絶、臨時政府創設への支持等を表明した共同声明への敬意及び謝意を表明。

（３）　チャヴシュオール・トルコ外相のベネズエラ訪問

（ウ）　１８日、チャヴシュオール・トルコ外相が、ベネズエラを訪問し、マドゥーロ大統領及びデルシー・ロドリゲス副大統領をそれぞれ表敬。また、アレアサ外相との会談、経済、保健等各分野の協力合意の締結及び共同声明への署名を行った。

（エ）　協力合意を行った分野は、経済、保健、文化、教育、住宅分野であり、同日、チャヴシュオール外相と会談したアルバラド保健大臣は、トルコ政府の新型コロナウイルス検査にかかる支援、病院建設、２０トン以上の新型コロナウイルス対策の医療用品等の協力に対する謝意を表明した。

（４）　アレアサ外相他の CELAC ビデオ会合への参加

１７日、アレアサ外相及びアルバラド保健大臣は、アルゼンチン及びメキシコ政府が、実験中の新型コロナウイルス・ワクチンに関する計画を発表したビデオ会合に参加。アレアサ外相は、アルゼンチン及びメキシコのイニシアティブに賛同し、民間セクターとともに全てのプロセスに参加したい旨表明。

（５）　その他

（ア）　３日、モリーナ・アジア中東オセアニア担当外務次官は、HispanTV のインタビューにおいて、米国の継続的な脅威にもかかわらず、ベネズエラ初のイラン系スーパーマーケットの開店等をはじめとして、ベネズエ

ラとイランは二国間貿易・協力関係を全ての分野において強化していくと述べた。

（イ） ３日、外務省は、ガイアナで行われた大統領選挙が再開票を含め長い選挙プロセスの末実施されたこと、また、Irfaan 大統領に対し、祝意を表すコミュニケを発出。

（ウ） ４日、外務省は、コミュニケを通じ、ベイルートで発生した爆発で被害を受けたレバノン政府及びレバノン国民に対する弔意を表すメッセージを発出。

（エ） ５日、観光・貿易省の代表団は、ベネズエラの輸出多様化を目的として、アンゴラ商工会議所会頭とビデオ会議を実施。

（オ） ６日、アレアサ外相は、Singh 新駐ベネズエラ・インド大使とビデオ会議を実施。エネルギー、医薬品、貿易、文化等のテーマに関する二国間協力計画の再検討を行った。

（カ） ６日、アレアサ外相は、米国によるジンバブエに対する制裁を非難するツイートを投稿。

（キ） ７日、アレアサ外相は、アジェンデ元大統領の勝利５０周年を祝したチリの社会主義系テレビ番組に中継を通じて出演。

（ク） ７日、ヒル欧州担当外務次官は、ロシアの Sputnik 紙に対し「ロシアの企業家がカラカスへ渡航しなければならないとき、西ヨーロッパの空港を経由しなければならない。コンビアサ航空の便により、直接カラカスへ渡航できる可能性があり、ベネズエラ及びロシアの企業双方の経費を削減することができる。我々は同航路が超短期的に実現することを期待している。」と発言し、コンビアサ航空がロシアとカラカス間の直行便の運航許可を得た旨発表（具体的な運航開始時期について言及なし）。

（ケ） ７日、インドネシア、ベトナム、マレーシアの駐カラカス大使（マレーシアは臨時代理大使）が、ASEAN 創設５３周年を祝し、モリーナ・アジア中東オセアニア担当外務次官とともに国立霊廟に献花を行った。

（コ） ８日、プラセンシア観光・貿易大臣は、アフリカの観光大臣・貿易大臣らとビデオ会議を行った。「プ」大臣は、自国ブランドを促進し、ラム酒、コーヒー、カカオ、南国フルーツ等の輸出促進を行いたい旨発言した。参加国は、アンゴラ、アルジェリア、ベナン、コンゴ（民）、エジプト、エチオピア、赤道ギニア、ケニア、マリ、モザンビーク、ナイジェリア、ナミビア、セネガル、南アフリカ、スーダン、チュニジア。

（サ） ９日、イラン・ベネズエラ二国間関係樹立７０周年を祝し、メネンデス企画担当副大統領、アレアサ外相、Soltani 駐ベネズエラ・イラン大使等が国立霊廟に献花を行った。

（シ） ９日、コロンビア移民局長が、約４万２千名のベネズエラ人がコロンビア各地でベネズエラへの入国を待っていると述べた。うち約１万８千人がボゴタ、約３千人がカリ、約１，２００人がメデジン、残りはククタ等の国境地域に滞在していると発言。

（ス） １０日、政府は、コミュニケを通じて、ベラルーシで９日に実施された大統領選挙に関し、民主的プロセスの発展だとするとともに、再選されたルカシェンコ大統領に対し祝意を表した。

（セ） １１日、政府は、コミュニケを通じて、トリニダード・トバゴで１０日に実施された選挙の結果、ロウニー首相が再選されたことに関し、祝意を表明した。

（ソ） １１日、３日に着任した Singh 新駐ベネズエラ・インド大使は、アレアサ外相に信任状の写しを提出後、同日中に、マドゥーロ大統領に信任状を奉呈。

（タ） １１日、プラセンシア観光・貿易大臣は、Niyi Adebayo ナイジェリア産業・貿易・投資大臣と、二国間テーマの検討のためビデオ会議を実施。

（チ） １１日、ビジェガス文化大臣は、新型コロナウイルス感染症に対する衛生的措置及び文化交流の重要性に関し、Melik-Bargdasarov 駐ベネズエラ・ロシア大使と会談（対面）。

（ツ）　１２日、政府は、コミュニケを通じ、１１日にロシア政府が世界初となる新型コロナウイルス感染症ワクチンを完成させたとの発表に関し、祝意及び深い敬意を表した。

（テ）　１４日、オンライン形式にてベネズエラの現状及び民主秩序の回復に関する第９回リマグループ外相会合が開催され、同会合において、ベネズエラにおける民主的移行プロセスの支援に関する共同声明を発出。

（ト）　１４日、マドゥーロ大統領は、エルドアン・トルコ大統領と電話会談し、新型コロナウイルス対策における医療資材の供与を通じたトルコの協力に謝意を表明。外務省は、エルドアン大統領が、同会談においてベネズエラに対する追加的支援の迅速な提供を確認、ベネズエラ国民に対する支援の継続を約束したとコミュニケを通じて発表。

（ナ）　１７日、マドゥーロ大統領は、ロウリー・トリニダード・トバゴ首相と電話会談し、ロウリー首相の再選に対する祝意を表した。

（ニ）　１８日、グアイド暫定大統領は、米国他３０か国以上が参加した共同声明にチェコが加入したと述べた。

（ヌ）　１９日、アレアサ外相は、パフェロフ・ベラルーシ大使にフランシスコ・デ・ミランダ勲章を伝達。

（ネ）　２０日、アレアサ外相は、マドゥーロ政権とイランがミサイル購入に向け交渉を行っているとのドゥケ・コロンビア大統領の発表をベネズエラに対する汚辱と虚偽のキャンペーンの再開であるとして非難。

（ノ）　２１日、コロンビア移民局は、ベネズエラ側がシモン・ボリバル国際橋の通行を封鎖したと発表。同日、アレアサ外相は、右情報はフェイク・ニュースであり、同日早朝に消毒作業のため一時的に国際橋を封鎖したが、同日午前１０時には通常通り国際橋の通行を再開したと発表。

（ハ）　２５日付外務省プレスリリースは、アレアサ外相が７日付書簡を通じてエルネスト・アラウージョ伯外相に、ブラジル国境地域における新型コロナウイルス対策に向けた二国間調整メカニズムの確立の必要性を繰り返し求めたことに対し、ブラジル外相がネガティブな回答をしたことをアレアサ外相が非難したと発表。

（ヒ）　２５日、汎米保健機構（ＰＡＨＯ）保健緊急事態局のウガルテ局長は、ベネズエラにおいて実施されているＰＣＲ検査数、同検査を処理する検査室の不足に対する解決策として、ＰＡＨＯが、３７万回分の迅速抗原検査をベネズエラに送付する予定であり、既に同検査を購入済みであると述べた。

（フ）　２５日、デルシー・ロドリゲス副大統領は、Singh 駐ベネズエラ印大使と、教育、貿易、文化等における協力プロジェクトの強化の継続を目的に会談（対面）。

（ヘ）　２５日、アレアサ外相は、Moubelet-Boubeya ガボン外相と、二国間協力を堅固にし、また、パンデミック後の二国間関係強化を目的とするあり得る訪問に関して意見交換を行った（ビデオ会談）。

（ホ）　２６日、プラセンシア観光・貿易大臣は、Shweikeh ヨルダン観光・遺跡大臣と、２０１９年の「プ」大臣のヨルダン訪問時の合意のフォローアップを目的にビデオ会談。

（マ）　２７日、Duyen 駐ベネズエラ・ベトナム大使は、新型コロナウイルス対策として、ベトナム国会からの寄付品である２万枚のマスクをカマルゴ制憲議会議長室長へ手交。

（ミ）　２７日、Nkosi 駐ベネズエラ南アフリカ共和国大使は、アンゴラの独立及びアパルトヘイト撤廃に貢献したとしてキューバのチェ・ゲバラ司令官を称える目的で、ペニャ・ラテンアメリカ担当外務次官とともにチェ・ゲバラ胸像へ献花を行った。

（ム）　２７日、アレアサ外相は、Onyeama ナイジェリア外相と、二国間戦略的協力関係の強化を目的に、また、二国間混合会合の準備会合として、ビデオ会談を実施。

（了）